

令和
8
年度版

作文の 友 2

～書くこと 大すき～



愛知教育文化振興会
三河教育研究会

2	年		く み	名 ま え	
---	---	--	--------	-------------	--



原稿用紙の使い方・書き直し方

だいは二、三マスあける

三行目から

書き出しは一マスあける

「から書き出すと
は一マスあけない

話しことば・会話は
行をかえる

話しことば・会話
二行目は一マス

話しことばのつぎの
行から新しく文がは
じまるときは一マス
下げる

話の内容が変わる
ときも一マス下げる

一マスあける

同じマスに
書く

いちばん下の「、」「。」はマスの中に入れる

さいごの一マスあける

書き直すときの記号

┐		{
行をかえる	とる	つけくわえる 書きかえる

先生と保護者の皆様へ

- ・教科書との関連を図っています。
 - ・児童が自分の力で文章が書けるようになることを意図して編集しています。
 - ・参考作品は「みかわの子」や地域の読書感想文集に掲載されているものを使っています。
- なお、掲載作品の学校名、地区名については執筆時の名前で表記されています。

令和8年度版 作文 2年

編集 「作文の友」編集委員会
三河教育研究会
刊行 公益財団法人愛知教育文化振興会
〒444-0868 岡崎市明大寺町字馬場東170番地1
電話 0564-51-4819
印刷 あいち印刷株式会社

※無断で複写・複製することを禁じます。

～書くこと 大好き～

2



もくじ

Ⅰ こんなことをして
いるよ…2

丸(まる)。()、点(てん)。()、かぎ「」…8

2 本は友だち………10
・読書かんそう文を書こう

絵^えを見てお話^{はなし}を書こう……22

④ 「どうぶつカード」を作ろう…26

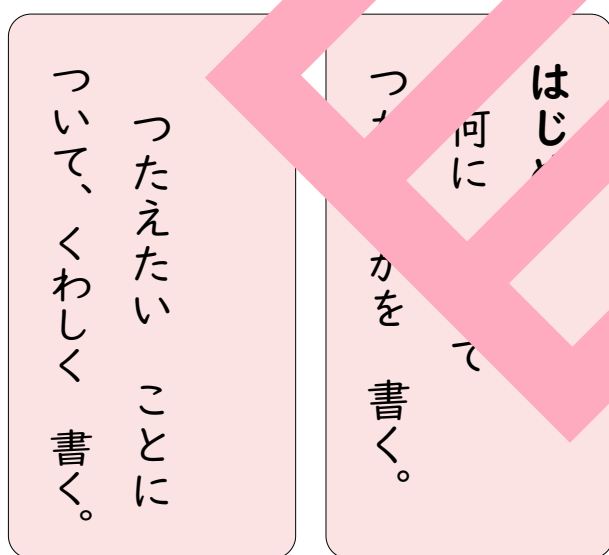
同じ^{おな}ところ、ちがうところ…29

べて つたえよう…………… 31

一 友だちに ったえたい ことを 考え、メモに 書き
出しましょう。教科書きょうかしょ77ページの 青木さんの メモを
手本に して、 書きましょう。

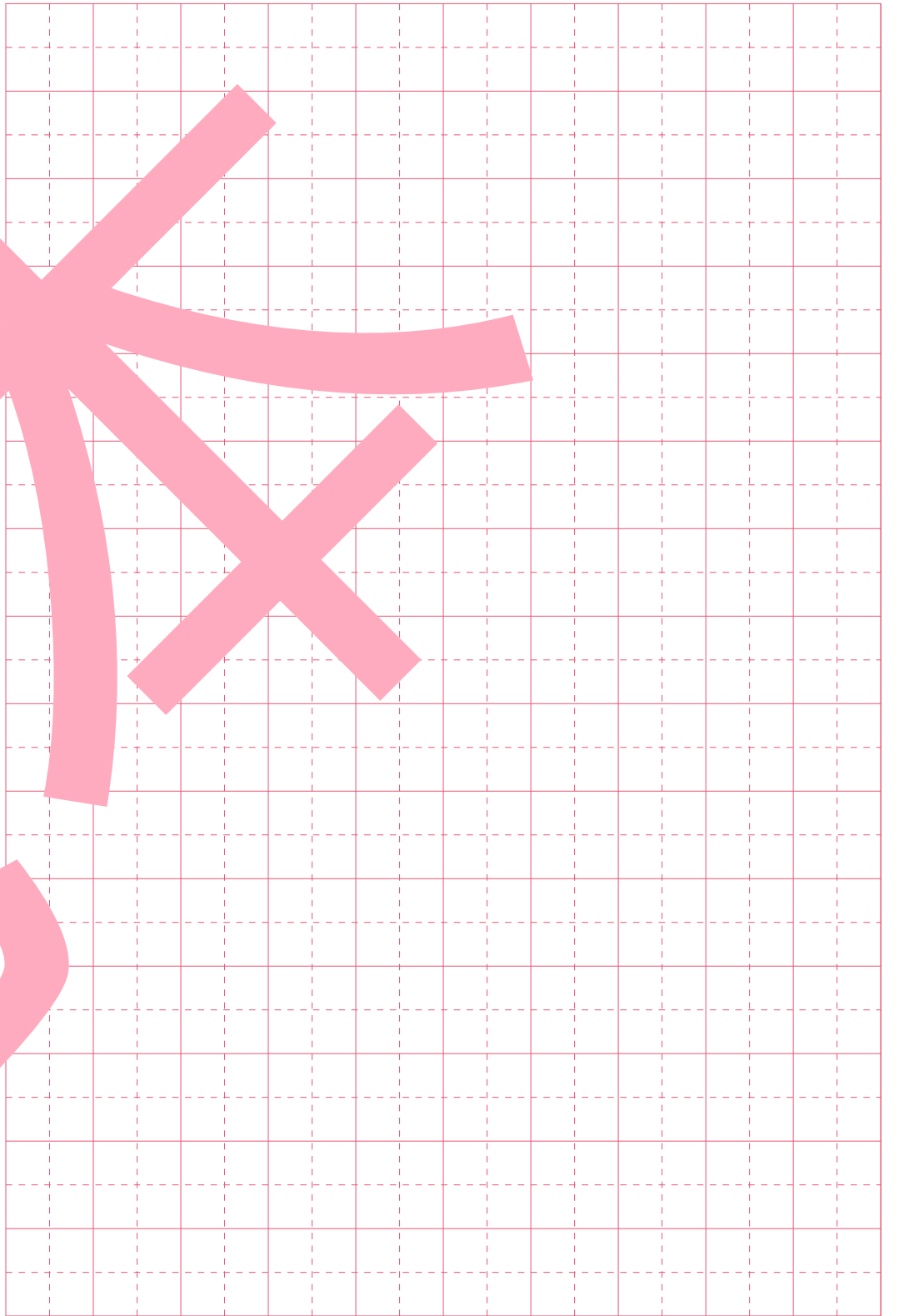
のこと

二友だちが書いた文しよ。どな

[illegible]

はじ
何に
つ
か
て
書く。

つたえたい ことに
ついて、くわしく 書く。



丸(まる)と点(てん)のつかい方(かた)

○ 教科書80ページを読んで、上の書き方で書きうつしましょう。

ぼくは、家でさらあら

いをしています。

さらあらいをすると

きは、まず、よごれた

さらを、水につけてお

きます。そして、せん

ざいをつけたスポンジ

を、下原(げん)こしに正しい

かぎ「このつかい方

○教科書80ページを読んで、上の文しょうを、下の原こう用紙に正しい書き方で書き直しましょう。

きのう、家で風のゆう
びんやさんを音読しま
した。
おかあさん「読む
はやさが、よ
い。読むのが、
ど。上手なっ
よ。と、うい
しくなり

「おき
「風
を

本はとも友だち

どくしょかんそう文を か書こうー
ー読書



本
読んで
まっ
と、
なしく
など、
ことが
思ったこと
かんじたことを文しょう
うにしたものを、読書かん
そう文といます。
読書かんそう文を書いて
みましょう。

一 あなたの 読んだ お話の ことを 「お話カード」
に書いて みましょう。

本の 名前まえ

本を書いた

ところ



- 心に のこった ところ
- ・ おもしろかった ところ
- ・ やさしいと 思った ところ
- ・ かなしかった ところ
- など

二 よし子さんは、「おまえ
を 読んで、アから オに
かんそう文を 書きまし
読む、みて、ききま
だ、ききま、ききま
うまそうだな」

ア この 本を 読む
ことになった わけ
国語の じょうしつ
だち」という も
その後、先生が「おま
という 本を しょうかいして くれたの
で 読んで みました。

イ お話の あらすじ
これは、大むかしの きょうりゅうの
お話でした。ティラノサウルスを 自分
の

お父さん^{とう}だと思^{おも}いこんでしま^{しま}ったア
ンキロサウルスの赤^{あか}ちゃんが、いろい
ろな^なかんちがいを^をくりかえすうちに、
だんだん^{だんだん}本当^{とう}の親^{おや}子^こみたいにな^なって
いくとい^いうお話^わでした。

ウ
心にのこ
ところ

・おもしろかった
ころ

生まれ^{うまれ}ばかりのアンキロサウルスの
おもしろ^{おもしろ}かったです。いちばん
「おまえ^{おまえ}うまそうだな。」とい^いわれた
名前^{なまえ}を「ワマソウ」だと

思^{おも}いこんでしま^{しま}ったと
は、声^{こえ}を出^でてわ^わかっていま^{いま}し
た。それ^{それ}で、自分^{自分}の名^な前^{まえ}を知^しらな^ない
から、お父^{おとう}さんだとい^いうかんちが
いも、おもしろ^{おもしろ}かった。

・やさしいと思^{おも}った
ところ

それから、二人^{ふたり}ともやさしいと思^{おも}
いました。ワマソウは、自分^{自分}の食^たべてい
た草^{くさ}を、ティラノサウルスにあげまし
た。でも、あまり^{あまり}好き^{すき}そうじゃな^なかつ
たので、毎^{まい}日^{にち}、山^{やま}から赤^{あか}い^いみをと^とつ
てきました。ティラノサウルスは、肉^{にく}食^{しょく}

なのに、それを 食べて、「おいしいよ。」
と 言って あげました。それに、ウマソ
ウが キラнтаイサウルスに 食べられそ
うに なった とき、まもって あげたり、
いろんな ことを 教^{おし}えて あげたり し
ました。

わたしは、さいしょ、ウマソウは ティ
ムに 食べられちゃうと 思っ
ても ぎどきしていたけれど、二人とも
み^みたいに なれたのだと 思いました。

・かなしかった ところ

いちばん 思い出^{おもひだ}した ところ
は、ティムと おれ^{おれ}の 友^{とも}だち
と かなしかったところ、
そう^{そう}に 思い出^{おもひだ}した ところ
が 出^でてきた。

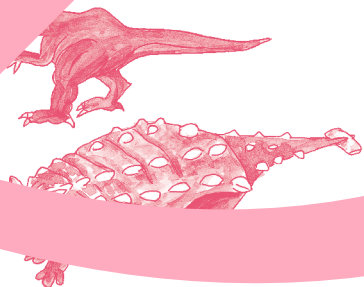
エ 本を 読んで
思い出した こと
・にていると 思った
こと

この 本を 読んで 「あした
も 友だち」と 思^{おも}った ところを
見^みつけました。「あしたも 友だち」に
出てくる おおかみも、この 本の ティ
ラノサウルスも らんぼうものと きまっ
て いました。でも、二人とも 弱^{よわ}い あ
い手に やさしくして あげました。見た
目は こわそうでも、心は ちがうんだな

と 思いました。

オ 本を 読む 前
と 考えや 気も
ちが かわった
こと

わたしには、今、^{いま}ちょっと 話しにくい
友だちや、こわいと思っ てる 人が
います。でも、ウマソウのように あい手
を いい 人だと思っ てる 話して みる
と、本当の 友だちに なれるかも しれ
ない。これから、にが手な 人とも、話
してみようかなと 思います。



宮下達也「おまえうまそうだな」ポプラ社

三 よし子さんの かんそう文
も 下の だんに 書いて

本の名前

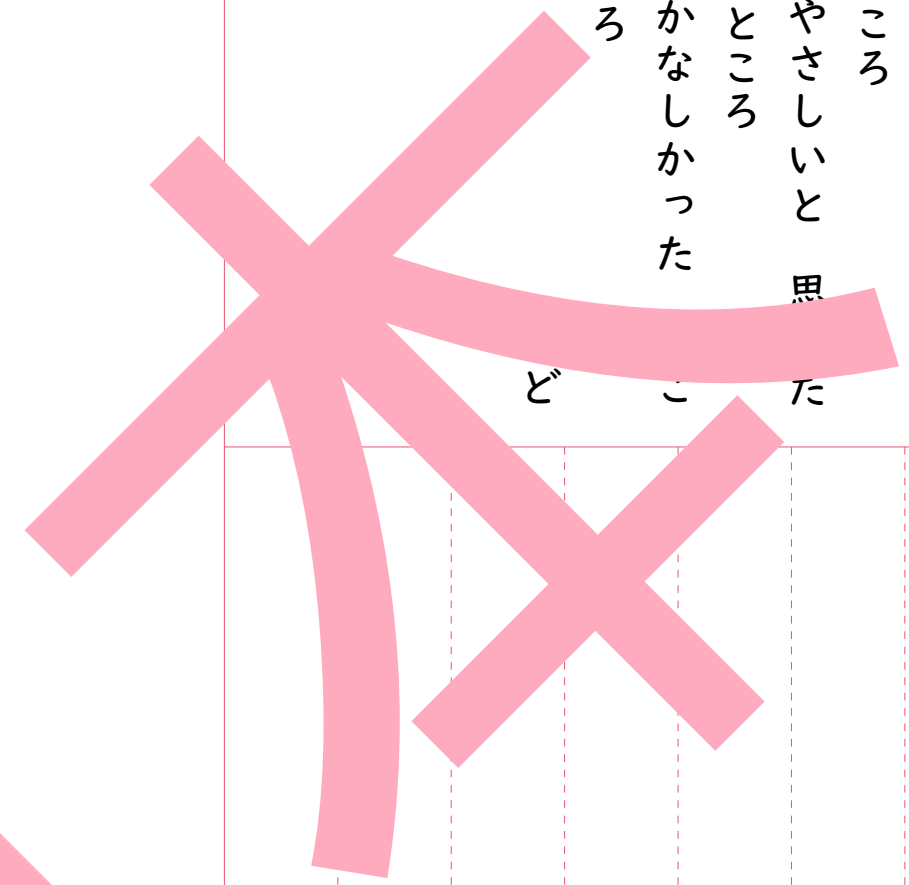
本を書いた人

ア この 本を 読む
ことになっ った わけ

イ お話の あらすじ

ウ 心に のこった
ところ

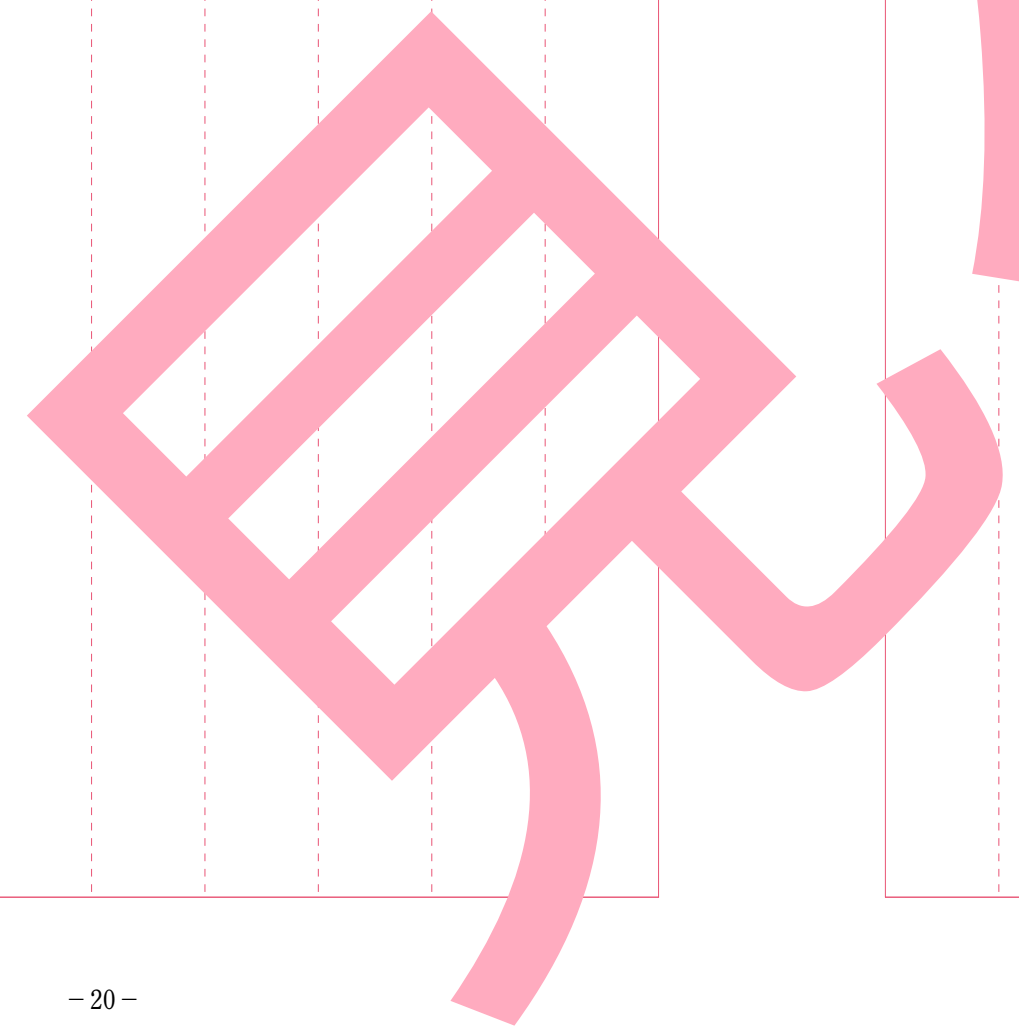
- ・ おもしろかったと
ころ
- ・ やさしいと思
た
ところ
- ・ かなしかった
ど



エ 本を 読んで

思い出した こと

- ・ もし 自分だったら
- ・ まわりで おきた
にている こと
- はんたいの こと



え

絵

を

はなし

お話を

見て

書こう



才

本を

読む

前

と

考えや

気も

ちが

かわった

こと

四

ひょう

原

こう用紙に

ましよう。

一 教科書135ページ③の 場めんでは、どんな できごと
が おこるでしょうか。場めんの ようすや、人ぶつが
する ことを そうぞうして 書きましょう。

③

二 教科書136・137ページの ③
ぶつが することや、言 こと、めんの
て 書きましょう。 お話、人
考、

一 知りたい どうぶつについて しらべて 分かった
ことを せいりして、メモに 書き出しましょう。

二 知りたい ことと、しらべて 分かった ことと、
よく 分ける 文しょう。
書い
ま
し
た
。



知りたい こと

・について、知りたいと
思いました。

しらべて 分かった
こと

・…という ことが、分
かりました。

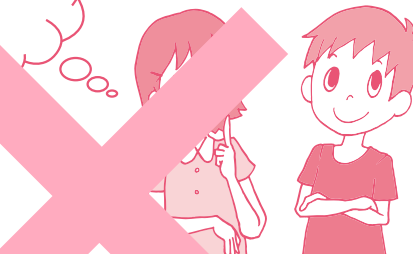
「色」「形」「大きさ」「食べ方」
何を くらべたのかな。

くらべた ところ	 [りんご]	 [なし]
色	赤色	うすい みどり色
	丸い	丸い
	なしと 同じ	りんごと 同じ
	かわをむいて 食べる	かわをむいて 食べる

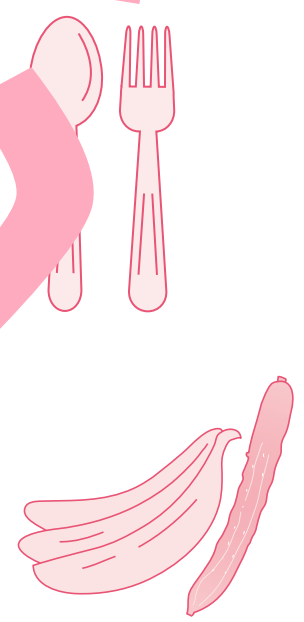
同じ ところ	ちがう ところ
・ 形	・ 色
・	
・	

一つぎの二つを 同じところと
分かるように ひょうに せいり
(1) 何を くらべたのか、ひょう
また、自分でも くらべると
同じところと、ちがうところと
をみつけよう。

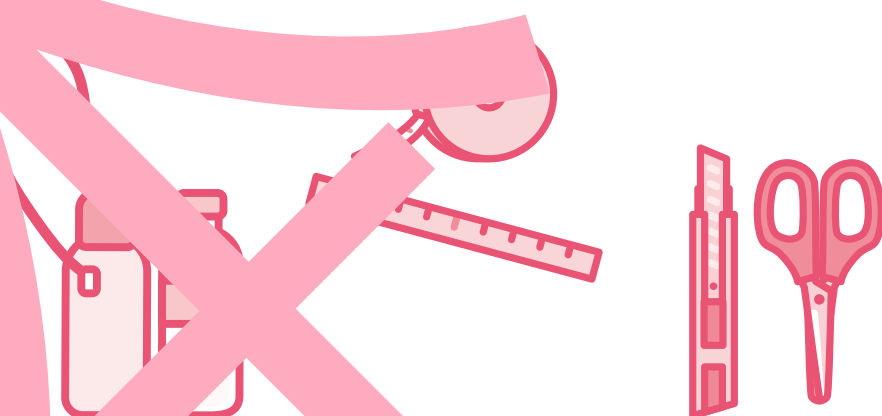
おな
同じ ところ、
ちがう ところ



二つのものをくらべ
て、同じところと ちが
うところを 見つけま
しょう。
そして、同じ ところと
ちがう ところを せいり
しましょう。



くらべて つたえよう



同じ やくわりをもつ
ものを くらべて、同じ
ところと ちがう ところ
を 見つけましょう。
そして、ものの とく
ちようをはっきりさせ
て せつ明する 文し
ょうを 書きましょ

一 みの回り^{まわ}にある ものの 中か
のを 書き出しましょう。

やくわり

やくわり

やくわり

やくわり

二 同じ やくわりの ものから 二つ えらび、 同じ ところ、 ちがう ところを ひょうに せい理しましょう。

	絵	絵
くら	[	][

三分かったことをせい理して
明する文しように書きましょ

やくわりの

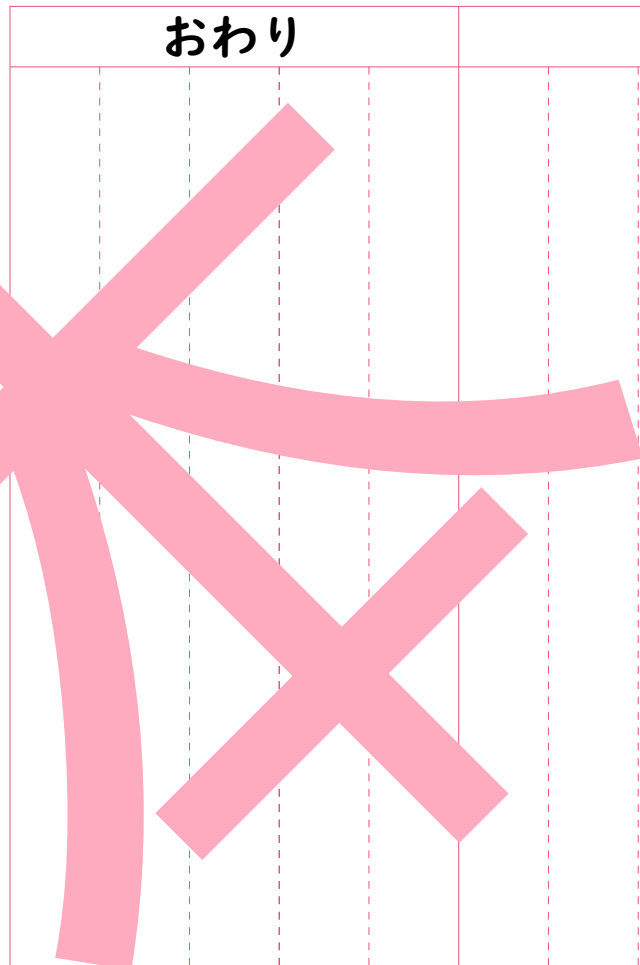
と

ものについて、どう

・とい
る
書く。

- ・ ことがらごとに
分けて 書く。

- ・ 読み手に
つたわるように、
くわしく書く。

おわり				中			
							
・ 思ったことを書く。							

・思ったことを書く。

四 書き直したほうがよい。直すところを直さう。直さう。

（書き直したところを直さう）

つ	も	と	ま
明	の	こ	ず
し	を	ろ	、
ま	切	わ	は
す	る	、	さ
。	と	ど	み
	こ	ち	と
	ろ	ら	カ
	で	も	ッ
	す	手	タ
		を	
		つ	の
		か	同
		っ	じ
		て	

一つ目は、はの数かずのちがいです。
はさみは、はの数かずが二つです。力
ツターは、はの数かずが一つです。ニ
つ目は、はをかえられるかどうか
です。はさみは、はをかえること

ころをせ
 つぎ
 もの
 ころは、
 らは、
 まず、
 さみと
 の道ぐのちがうと
 をつかって
 の同じ

一つ目は、はの数のちがいです。
はさみは、はの数が二つです。力
ツターは、はの数が一つです。
二つ目は、はをかえられるかと
うかです。はさみは、はをかえる

書き直すときの 記づう

文字を つけくわえる
ぎょう
行を かえる

書きかえる
一ます 下げる

とる

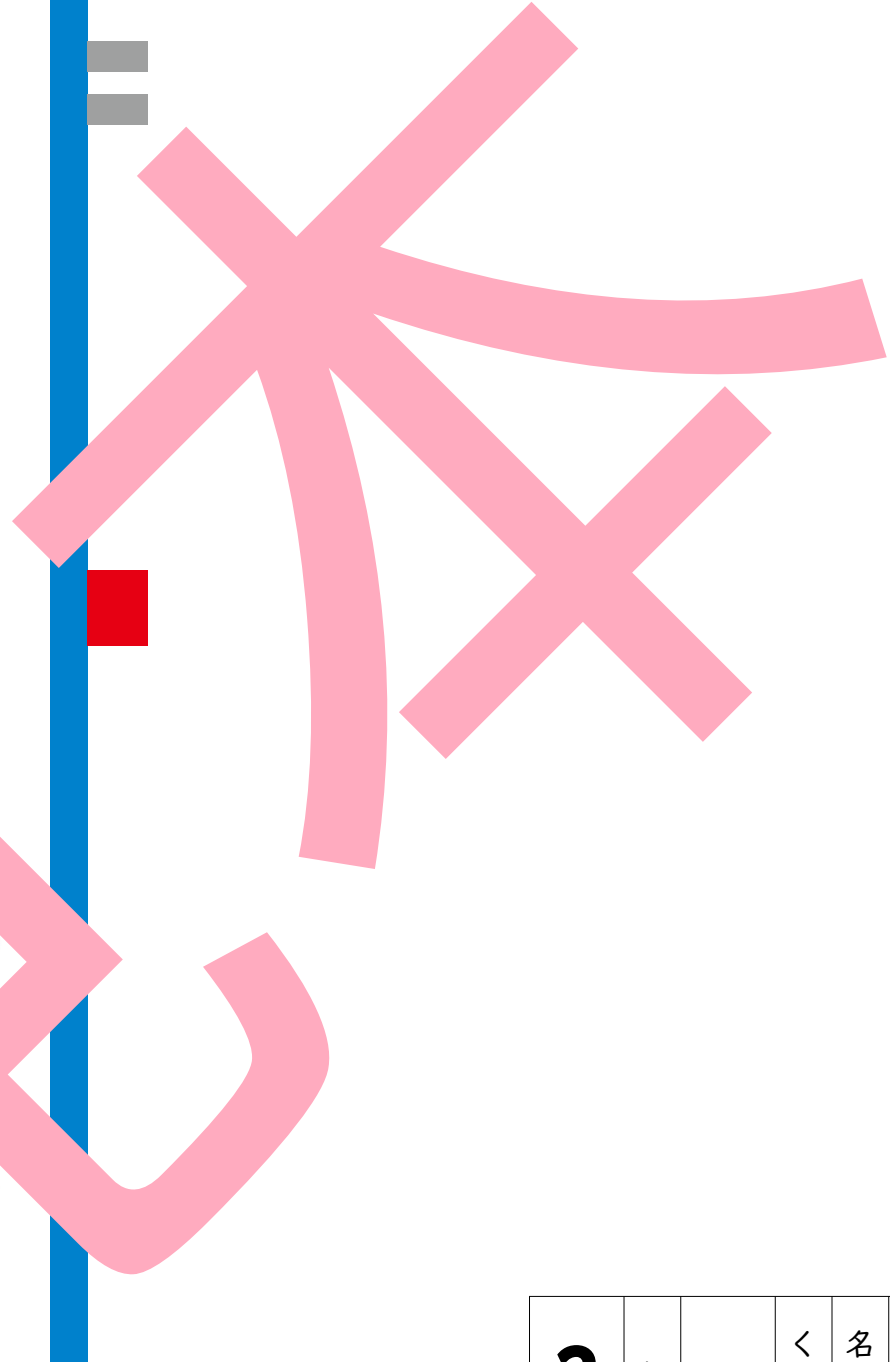
令和
8
年度版

作文の 友 2

～書くこと 大すき～



指導展開例あり



2	年		く み	名 ま え	
---	---	--	--------	-------------	--

愛知教育文化振興会
三河教育研究会



原稿用紙の
正しい書き方

原稿用紙の使い方・書き直し方

だいは二、三マスあける

三行目から

書き出しは一マスあける

ただし
「から書き出すとき
は一マスあけない

話しことば・会話は
行をかえる

話しことば・会話は
二行目は一マス

話しことばのつぎの
行から新しく文がは
じまるときは一マス
下げる

話の内容が変わる
ときも一マス下げる

「。」「。」「一マス

一マスあける

書き直すときの記号
つけくわえる
書きかえる
とる
行をかえる

ず	と	小	さい	い	こ	ろ	に	お	兄	ち	ゃ	ん	と	お	姉	ち
の	ふ	も	と	す	ず	木	し	お	り							
ん	が	聞	こ	か	ら	出	て	る	の	か	な	な	色	が		
ま	し	た	が	わ	か	り	ま	せ	ん							
主	人	が	さ	が	し	に	行	く								

いちばん下の「、」「。」「」はマスの中に入れる

さいごの一マスあける

先生と保護者の皆様へ

- 教科書との関連を図っています。
 - 児童が自分の力で文章が書けるようになることを意図して編集しています。
 - 参考作品は「みかわの子」や地域の読書感想文集に掲載されているものを使っています。
- なお、掲載作品の学校名、地区名については執筆時の名前で表記されています。

令和8年度版 作文 2年

編集 「作文の友」編集委員会
三河教育研究会
刊行 公益財団法人愛知教育文化振興会
〒444-0868 岡崎市明大寺町字馬場東170番地1
電話 0564-51-4819
印刷 あいち印刷株式会社

※無断で複写・複製することを禁じます。

経験したことを伝えるために、簡単な構成を考えて、文章を書く
上「こんなことをして、いるよ」

～書くこと 大好き～

2



もくじ

《教科書との関連》

① こんな ことを して いるよ…2

上「こんな ことを して いるよ」

・丸(。)、点(、)、かぎ(「」)…8

② 本は 友だち…10

・読書かんそう文を 書こう

上「二年生の 本だな」

絵を見て お話を 書こう…22

上「絵を 見て お話を 書こう」

「どうぶつカード」を 作ろう…26

下「どうぶつカード」を 作ろう

同じ ところ、ちがう ところ…29

下「同じ ところ、ちがう ところ」

べて つたえよう…31

下「くらべて 指導展開例あり」

〈 表紙 丸地 宏直先生 〉

一 友だちに ったえたい ことを 考え、メモに 書き
出しましょう。教科書きょうかしょ77ページの 青木さんの メモを
手本に して、 書きましょう。

のこと

・できるだけ詳しく内容を書き、文章が書きやすいように番号を付ける活動を入れる。

二友だちが書いた文しよ。どななぢのし
じよで書いているのか。んで。みまし。

はじめ
います。
ぼくは、家でさらあら
として

中
 スポンジで、さらをあらいます。
 さらにをわらないように気をつけて
 やさしくこすります。さいごに、
 水であわをながします。さらあら
 いをするとおかあさんが、

は
じ
め

何に

つ
か
を
書
く。

つたえたい ことに
ついて、くわしく書く。

A pink geometric design on a light gray grid background. The design consists of several thick, curved lines and a large 'X' shape. The lines are arranged in a way that suggests a stylized letter or a decorative element. The 'X' is formed by two intersecting lines. The overall style is modern and minimalist.

○ 教科書80ページを 読んで、上の
書き方で 書きうつしましょう。

さらあらいをする

さらに、水につけてお

ざいをつけたスポンジ

よく、家
さらあ

さらにすると

さらを、水につけてお

ざいをつけたスポンジ

かぎ(「)の つかい方

○ 教科書80ページを 読んで、上の 文しょうを、下の 原こう用紙に 正しい 書き方で 書き直しましう。

きのう、家で風のゆう
びんやさんを音読しま
した。
おかあさんに、「読む
はやさが、ちよ
うどよいね。読み方
が、どんどん上手に
なっているよ。」
と言われて、うれしく
なりま。

きのう、家で「風の
ゆうびんやさん」を音
読しました。
おかあさんに、「
読むはやさが、ちよ
うどよいね。読み方
が、どんどん上手に
なっているよ。」
と言われて、うれしく
なりま。

○ 目標 読書に興味をもち、心に残ったことを取り上げて、読書感想文を書
○ 関連 上「二年生の 本だな」

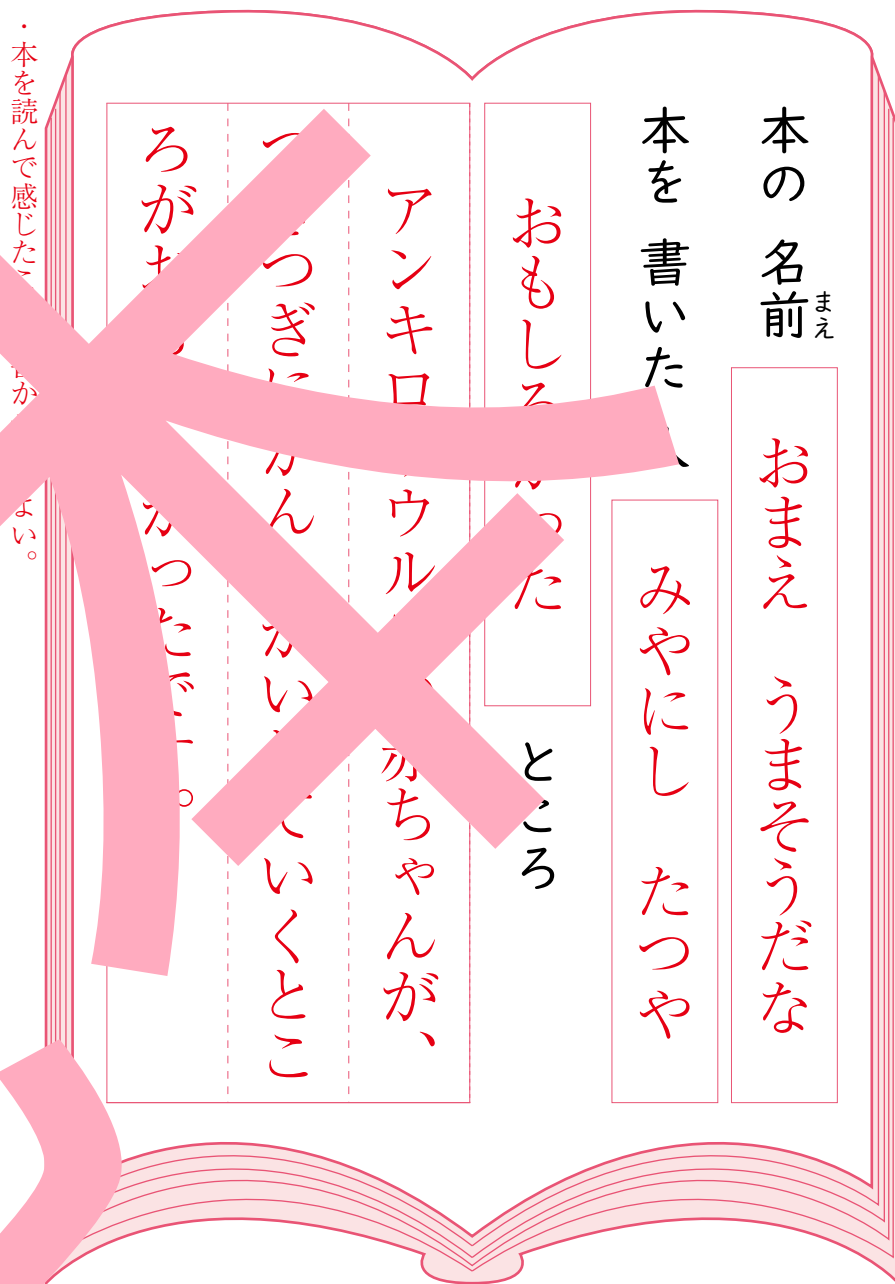
とも 友だち 本は

どくしょ かんそう文を 書こう
— 読書 —



本を 読んで、思ったこと
かんじたことを 文しょう
にしたものを、読書かん
そう文と います。
読書かんそう文を 書いて
みましよう。

一 あなたの 読んだ お話の ことを 「お話カード」
に書いて みましょう。



心に のこった
ところ
・ おもしろかった
ところ
・ やさしいと
思った ところ
・ かなしかった
ところ
など

二 よし子さんは、「おまえ うまそうだな」という本
を 読んで、アから オまで 書き出しながら
かんそう文を 書きまし。

ア この 本を 読む
ことになった わけ

国語の じょうしつ 読みましたも 友
だち」という もの を 読みました。
その後、先生が「おまえ うまそうだな」
という 本を しょうかいして くれたの
で 読んで みました。

イ お話の あらすじ

これは、大むかしの きょうりゅうの
お話でした。ティラノサウルスを 自
分の

お父さん^{とう}だと思^{おも}いこんでしま^{しま}ったア
ンキロサウルスの赤^{あか}ちゃんが、いろい
ろな^なかんちがいを^をくりかえすうちに、
だんだん^{だんだん}本当^{とう}の親^{おや}子^こみたいにな^なって
いくとい^いうお話^わでした。

ウ^う心に^{こころ}のこ^こた^た
ところ

・おもしろ^{おもしろ}かったと^と
こころ

生まれ^{うまれ}ばかりのアンキロサウルスの
お父^{おや}さん、つぎつぎに^にかんちがいして
い^いくも^もおもしろ^{おもしろ}かったです。いちばん
「おまえ^{おまえ}うま^{うま}そう^{そう}だな。」とい^いわれた
お父^{おや}さん、お母^{おはは}さん、おま^{おま}まを^を「ワマソウ」だと

思^{おも}いこんでしま^{しま}ったと^ところ
は、声^{こえ}を出^でて、わ^わわって^ていまし
た。そ^その^の自分^{おれ}の名^な前^{まえ}を^を知^しらな^ない
から、お父^{おや}さんだ^だとい^いうかんち
ころも、おもしろ^{おもしろ}かったと^と

・やさしいと思^{おも}った
ところ

それから、二人^{ふたり}とも、やさしいと思^{おも}
ました。ワマソウは、自分^{おれ}の食^たべてい
た草^{くさ}を、ティラノサウルスに^にあげまし
た。でも、あまり^{あまり}すきそうじゃ^{じゃ}なかつ
たので、毎^{まい}日^{にち}、山^{やま}から赤^{あか}い^いみをと^とつ
てきました。ティラノサウルスは、肉食^{にくしょく}

なのに、それを 食べて、「おいしいよ。」
と 言って あげました。それに、ウマソ
ウが キラнтаイサウルスに 食べられそ
うに なった とき、まもって あげたり、
いろんな ことを 教^{おし}えて あげたり し
ました。

わたしは、さいしょ、ウマソウは ティ
ムに 食べられちゃうと 思っ
て、きどきしていたけれど、二人とも
とても 楽しかったから、本当の 親子
みたいになれたのだと 思いました。

・かなしかった ところ

いちばん 楽しい ところ
は、ティムと おれ
は、かなしかった、な
が、出
る

エ 本を 読んで

思い出した こと

・にていると 思った
こと

この 本を 読んで 「あした
も 友だち」と 思
い、友だち」に
見つけました。「あし
も 友だち」に
出てくる おおかみも、この 本の ティ
ラノサウルスも らんぼうものと きまっ
て いました。でも、二人とも 弱^{よわ}い あ
い手に やさしくして あげました。見た
目は こわそうでも、心は ちがうんだな

と 思いました。

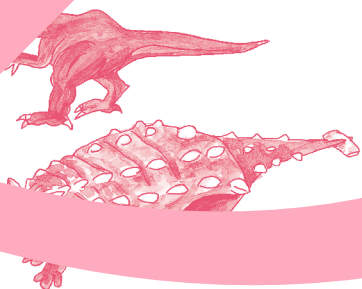
オ 本を 読む 前

と 考えや 気も

ちが かわった

こと

わたしには、今、^{いま}ちょっと 話しにくい
友だちや、こわいと思っ てる 人が
います。でも、ウマソウのように あい手
を いい 人だと思っ てる 話して みる
と、本当の 友だちに なれるかも しれ
ない。これから、にが手な 人とも、話
みようかなと 思います。



宮下達也「おまえうまそうだな」ポプラ社

・上段と下段を照らし合わせるとよい。

三 よし子さんの かんそう文

も 下の だんに 書いて

まし。本に いて、うま

本の名前

本を書いた人

ア この 本を 読む

ことになっ った わけ

イ お話の あらすじ

ウ 心に のこった
ところ

- ・ おもしろかったと
ころ
- ・ やさしいと思
た
ところ
- ・ かなしかった
ど

・ 書けない児童に
・ 全ての内容
・ 書いて書かなくてもよいことを助言するとよい。

エ 本を 読んで

思い出した こと

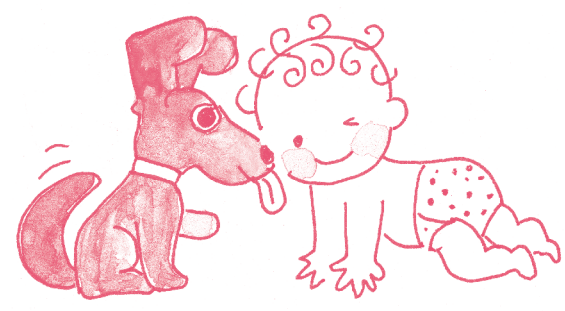
- ・ もし 自分だったら
- ・ まわりで おきた
にている こと
- ・ はんたいの こと

才 本を 読む 前
と 考えや 気も
ちが かわった
こと

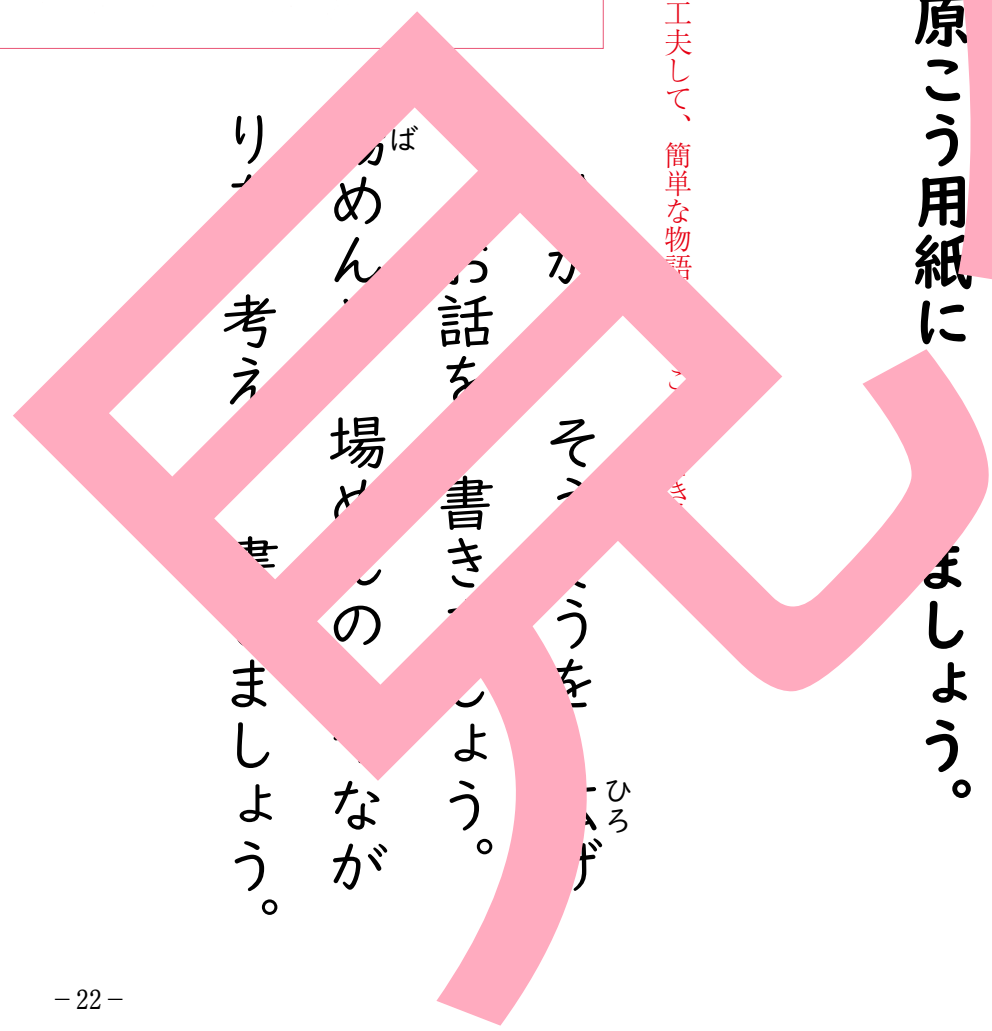
四 ひょう 原こう用紙に ましょう。

○目標 内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫して、簡単な物語
○関連 上「絵を 見て お話を 書こう」

え 絵を 見て 書く はなし お話を



り ば
めん
考え
場
の
ましよう。
なが
ましよう。
き
そう
うを
ひろ
が



一 教科書135ページ③の場めんでは、どんなできごとがおこるでしょうか。場めんのようすや、人ぶつがすること、そうぞうして書きましよう。

③

②の場面と④の場面は、
③の場面と⑤の場面と
の違いに注目させる。

二 教科書 136・137 ページの
ぶつが することや、言
て 書きましたよう。

③

めんごを

お話し人
考案人

A cartoon illustration of three animals: a giraffe with brown spots, a lion with a large brown mane, and a small dog with a white beard and brown fur. They are all smiling and standing on a green patch of grass.



の

文章を書か
うぶの
ことを、
分^わか
る文
を
し
て
や
す
い
て
知
ら
べ
い
たい
か
。

○目標
文章の中の重要な語や文を考えて選び出し、分かりやすく文章を書き下ろす。

○関連
下「どうぶつカード」を作ろう。

・友達と読み合い、お互いに流し読みを促す。こよい。

A large, stylized pink starburst or asterisk shape is positioned on the left side of the page. It is composed of several thick, curved lines radiating from a central point. The background is a light gray grid with solid lines and dashed lines, creating a graph paper effect. The starburst is pink and has a slight 3D effect with a darker pink shadow.

一 知りたい どうぶつについて しらべて 分かった
ことを せい理^りして、メモに 書き出しましょう。

- ・教科書(下) P.27を参照
- ・メモが複数ある場合

② ①で紹介したい項目を決めるとよい。

二 知りたいことと、しらべたいことと、
とを分けて、しらべたいことと、
よく分かる文しよう。ことと、ことと、

知りたい こと ・くについて、知りたいと 思いました。	
しらべて 分かった こと ・…という ことが、分 かりました。	

・この文章をもとに、二次元コード資料を活用して、「どうぶつカード」を作成する。

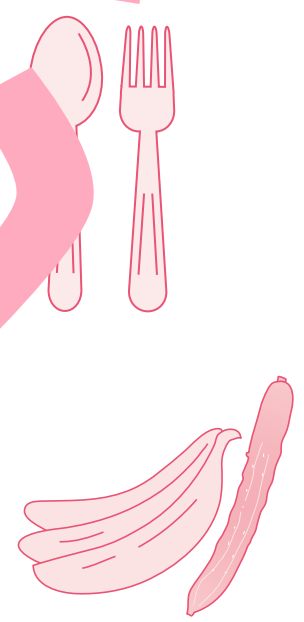
○目標 二つの物を比べて同じところと違うところを見つけ、それらが明確に分かるよう書き表すことができる。

○関連 下「同じところ、ちがうところ」

おな 同じところ、ちがうところ

二つのものをくらべて、同じところとちがうところを見つけましょう。

そして、同じところとちがうところをせいりしましょう。



一つぎの二つを 同じところとちがうところに分かるように ひょうに せいりしよう。

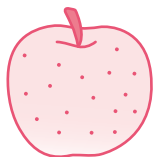
(1) 何をくらべたのか、ひょうに せいりしよう。

(2) また、自分でもくらべるところをきめてみよう。

同じところと、ちがうところ



「色」「形」「大きさ」「食べ方」
何をくらべたのかな。

くらべたところ	 [りんご]	 [なし]
色	赤色	うすいみどり色
形	丸い	丸い
大きさ	なしと同じ	りんごと同じ
食べ方	かわをむいて食べる	かわをむいて食べる

同じところ

- ・形
- ・大きさ
- ・食べ方

ちがうところ

- ・色

○目標 同じ役割をもつものを比べて、同じところとちがうところを見つけることができる。ものの特徴をはっきりさせて、説明する文章を書くことができる。
○関連 下「くらべて つたえよう」



同じ やくわりをもつ
ものを くらべて、同じ
ところと ちがう ところ
を 見つけましょう。
そして、ものの とく
ちようを はっきりさせ
て せつ明する 文しろう
を 書きましょう。

(例)

音を出す

やくわり

大だいこ、カスタネット

すず、木きん

やくわり

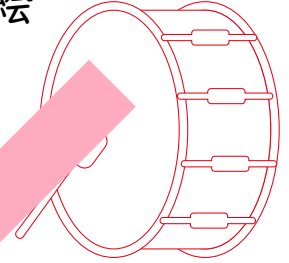
やくわり

やくわり

・教科書(下)P 97を参考に、ものの役割を考えたとよい。
・一項目に複数ある場合は、比べるものに○をつけさせるとよい。

二 同じ やくわりの ものから 二つ えらび、 同じ ところ、ちが
う ところを ひょうに せい理しましょう。

(例)

絵	絵
	
くら	木きん
[大だいこ]	[木きん]
はちでたたく。	はちでたたく。
ドン、と、 カ、と音が ひびく。	コンコンと、 やさしい音が 鳴る。
音の高さ かわらない。	音の高さが かわる。

・比べたところは児童
に指定してもよい。

三 分かった ことを せい理して
明する 文しように 書きましよ

やくわりの

と

もの ついで、

・とい
を書く。

・ことがらごとに
分けて 書く。

・読み手に
つたわるように、
くわしく 書く。

はじめ

中

こんなことをしているよ

《教科書との関連》

上「こんなことをしているよ」

一 学習目標

・経験したことを伝えるために、簡単な構成を考えて、文章を書くことができる。

二 指導事項

- 1 例文から、順序よく書く方法を学ばせる。
- 2 家でしていることを振り返りながら、友達に伝えたいことをメモに書きせる。
- 3 メモをもとに、文章の組み立てを考えて文章を書かせる。
- 4 友達と作品を読み合い、感想を交流させる。

三 展開例

学習の流れ	学習内容・活動	指導上の留意点
① 書きたいことを思い出し、メモに書く。	①① P2を読み出し、自分のメモに書く。 (2) ①①のメモに書く。 (設問一)	①教科書(上)P78、79の例文を教師の範読で聞かせる。 ○メモは、簡潔に書くことをおさえておく。
② 文章の組み立てを考える。	②① 前時に書いた文章を読み、自分の文章の組み立てを比べる。 (2) ②①の文章の組み立てを比べる。 (3) ②①の文章の組み立てを比べる。 (設問二)	②選び方は、具体的に例を出して教える。よい。 ○P4、P5の下欄の「はじめ」「中」「おわり」を参考にさせて、P3のメモに、番号をふらせる。
③ 作文を書く。	③① 作文を書く。 (2) ③①の作文を書く。 (3) ③①の作文を書く。 (設問三)	③順序を表す言葉を使って文章を書かせる。 ○P8「丸(○)」と点(・)のつかい方」に取り組みせたり、P9「かぎ(「」)」のつかい方」に取り組みせたりするとよい。
④ 感想を交流する。	④① 友だちの作文を読み、感想を交流する。 (2) ④①の作文を読み、感想を交流する。 (3) ④①の作文を読み、感想を交流する。 (設問四)	④自分の感想を、友だちの作文に書いてあることと比べて、感想を交流させる。

本は 友だち

―読書かんそう文を書こう―

一 学習目標

・読書に興味をもち、心に残ったことを取り上げて、読書感想文を書くことができる。

二 指導事項

- 1 例文から、順序よく書く方法を学ばせる。
- 2 家でしていることを振り返りながら、友達に伝えたいことをメモに書きせる。
- 3 メモをもとに、文章の組み立てを考えて文章を書かせる。
- 4 友達と作品を読み合い、感想を交流させる。

三 展開例

学習の流れ	学習内容・活動	指導上の留意点
① 物語を選び、読む。	①① 物語の本を選んで読む。 (2) ①①の本の名前や作者、本を読んでおもしろかったところをP11のカードに書く。 (設問一)	①新たに本を読むだけでなく、これまでに読んだ本について書かせるのもよい。
② 感想文の例を読む。	②① どんなことを書けばよいのか、確認しながらP12～P17の感想文の例を読む。 (2) ②①の感想文の例を読む。 (設問二)	②○上段と下段を照らし合わせて読ませる。
③ 感想文を書く。	③① 項目にそって、P18～P21に感想文を書く。 (2) ③①の感想文を書く。 (設問三)	③○書けない児童は、全ての項目について書かなくてもよいことを助言する。
④ 自分の感想文を原稿用紙に清書する。	④① 自分の感想文を原稿用紙に清書し、友達と読み合う。 (2) ④①の感想文を原稿用紙に清書し、友達と読み合う。 (設問四)	④○正しく書けたか、表紙裏や教科書(上)P80を見て確かめさせるとよい。 ○グループや隣同士で読み合い、交流させる。

絵を見て お話を 書こう

《教科書との関連》
上「絵を見て お話を 書こう」

一 学習目標

・内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫して、簡単な物語を書くことができる。

二 指導事項

- 1 絵から、登場人物像や場面ごとの様子について分かったことや想像したことを話し合わせる。
- 2 場面の様子がよく分かるように、人物の行動や会話のつながりを考えて、物語を書かせる。
- 3 完成した物語を読み合い、感想を伝え合わせる。

三 展開例

学習の流れ	学習内容・活動	指導上の留意点
① 絵を見て物語を想像する。	① 教科書(上)P135の②の場面の様子について話し、絵や吹き出しを書く。(設問一)	①○教科書(上)P135の②と④の場面の絵を比較させる。
② 物語を書く。	② 教科書(上)P135の③の文章を読み、登場人物の行動、会話の内容などを想像し物語を書く。(設問二)	②○自分が書いた物語を読み返して、分かりやすく書けているか、誤字脱字がないか、などを確かめさせる。
③ 書いた物語を読み合う。	③ 書いた物語を読み合い、お互いが書いた物語の面白さや面白くないところを話し、感想を交流する。	③○自分が書いた物語と比較しながら読むように声かけをする。 ○それぞれが書いた物語に表紙をつけ冊子にして、回覧させてもよい。

「どうぶつカード」を作ろう

一 学習目標

・文章の中の重要な語や文を考えて選び出し、分かりやすく文章を書くことができる。

二 指導事項

- 1 調べたい動物やその動物の知りたいことを考える。
- 2 本を用いて調べ、分かったことをP27のメモに整理して書き出す。(設問一)
- 3 調べた動物のことがよく分かるように、くわしく文章に表す。(設問二)
- 4 友達と自分の書いたカードを交換し、感想を伝え合う。

三 展開例

学習の流れ	学習内容・活動	指導上の留意点
① 動物の調べたことをメモに書く。	①(1) 調べたい動物やその動物の知りたいことを考える。 (2) 本を用いて調べ、分かったことをP27のメモに整理して書き出す。(設問一)	○知りたいことに関係のある言葉を探しながら、本で調べていくように声かけをする。 ○メモに書いた後に、紹介したい項目を選ばせる。
② 文章を書く。	②(1) 調べた動物のことがよく分かるように、くわしく文章に表す。 (2) どうぶつカードを作成する。	②○知りたいことと調べて分かったことの内容がずれていないか確認させてから取り組ませる。
③ 文章を読み合う。	③ 友達の記事を読み、感想を伝え合う。	③○知りたいことに対して調べて分かったことが分かりやすく書かれているかに着目させて読ませるとよい。

同じところ、ちがうところ

《教科書との関連》

下「同じところ、ちがうところ」

一 学習目標

- ・二つの物を比べて同じところと違うところを見つけ、それらが明確に分かるよう書き表すことができる。

二 指導事項

- 1 比べる物に合った観点を見つけさせる。
- 2 同じところと違うところをそれぞれ整理し書かせる。

三 展開例

学習の流れ	習内容・活動	指導上の留意点
① 二つの物の比べ方を知り、表にまとめる。	① P 30の表を使う。 (1) 何を比べて葉を選んで記入。 (2) 他にもどこを比べられるか考えたことを記入して、表を完成させる。 (3) 同じところとちがうところを比べて、表の空欄に記入する。	①○表を見て、何を比べているのかを考えさせることで、比べるときの観点について理解させる。 ○比べたことを発表させ、比べるときの観点に対する理解を深めさせる。 ○同じところと違うところはどこか表を使って確かめさせる。

くらべて つたえよう

一 学習目標

- ・同じ役割をもつものを比べて、同じところとちがうところを見つけることができる。
- ・ものの特徴をはっきりさせて、説明する文章を書くことができる。

二 指導事項

- 1 同じところとちがうところを比べて、表に書く。
- 2 同じところとちがうところを比べて、説明する文章を書く。

三 展開例

学習の流れ	学習内容・活動	指導上の留意点
① 伝えることを決める。	① P 32のメモを書き出す。 (1) 身の回りにあるものの中から同じ役割をもつものを書き出す。 (2) 一項目を選び、その中から比べるものを二つ選ぶ。	○教科書(下)P 97の例を参考に同じ役割のものを集めさせる。
② 伝えることを整理する。	② 選んだ二つのものについて、比べる観点に従って、P 33の表を作る。(設問二)	②○同じところとちがうところはどこか表を使って確かめさせる。
③ 文章を書く。	③ 比べた表をもとにしてP 34、35に書く。(設問三)	③○教科書(下)P 99の例を参考に文章の構成を意識して書かせるとよい。
④ 読み返し、書き直した方がよいところを書き直す。	④ 書いた文章を声に出して読み返し、書き直した方がよい所を書き直す。(設問四)	④○P 36の例文を参考に書き直させるとよい。
⑤ 文章を読み合う。	⑤ 友達と読み合い、分かりやすく書けているところを伝え合う。	⑤○文章の構成や順序を表す言葉に着目させて読ませるとよい。